

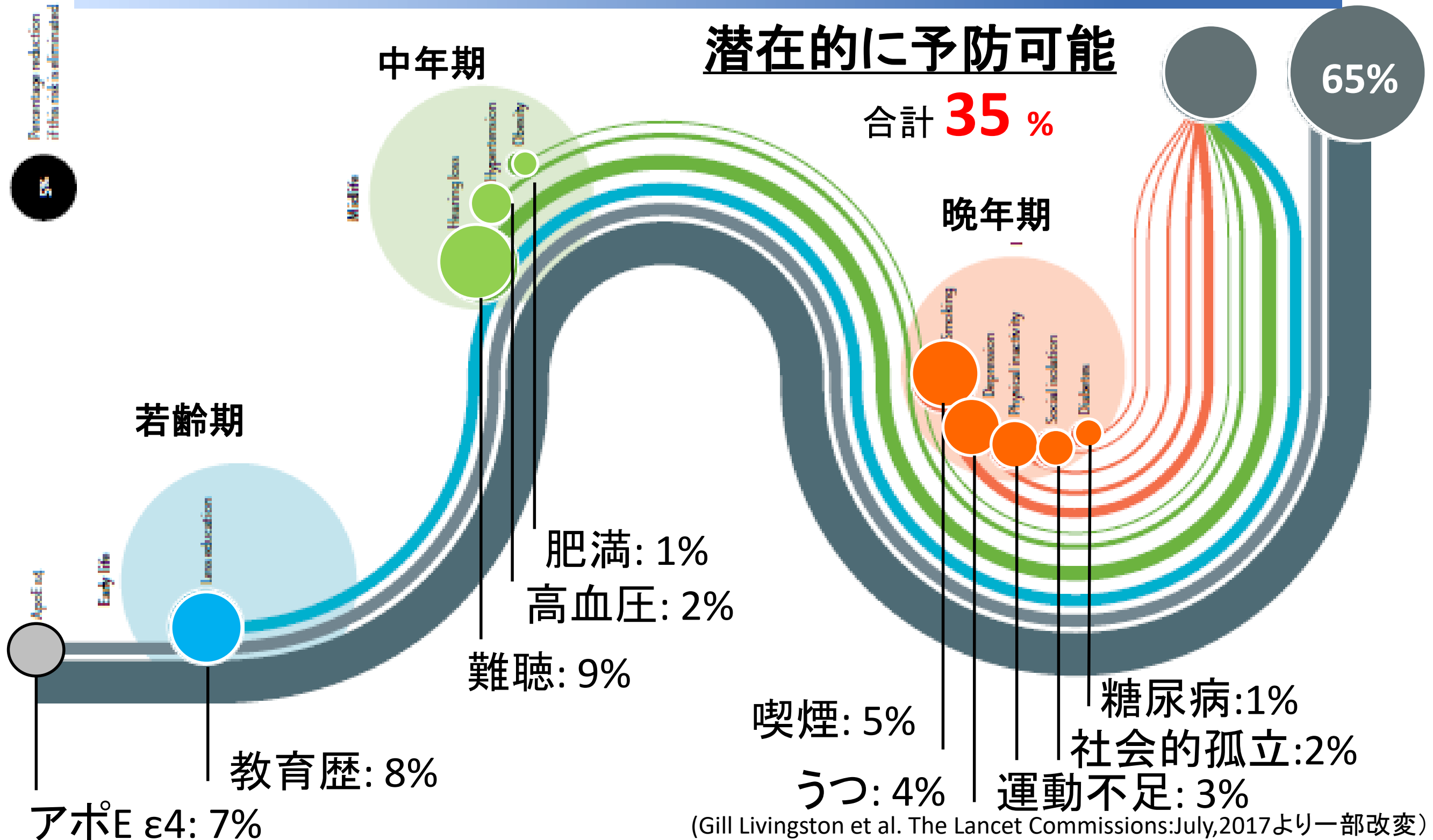
認知症のリスク因子 について

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)抜粋

Ⅱ 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供 【発症予防の推進】

- 加齢、遺伝性のもの、高血圧、糖尿病、喫煙、頭部外傷、難聴等が認知症の危険因子、運動、食事、余暇活動、社会的参加、認知訓練、活発な精神活動等が認知症の防御因子とされている。
- 認知症の発症予防については、運動、口腔に係る機能の向上、栄養改善、社会交流、趣味活動など日常生活における取組が、認知機能低下の予防に繋がる可能性が高いことを踏まえ、住民主体の運営によるサロンや体操教室の開催など、地域の実情に応じた取組を推進していく。

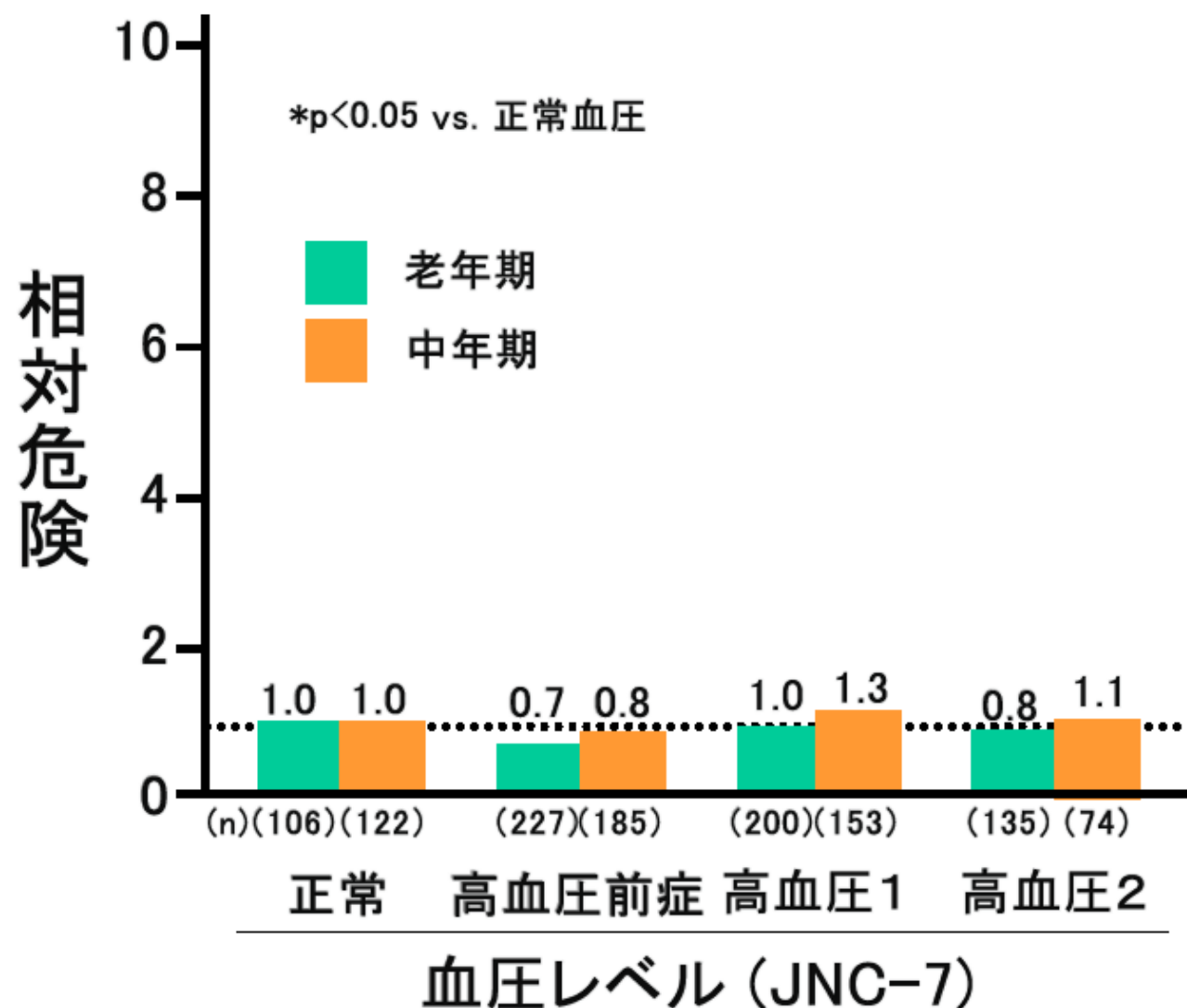
予防可能な認知症危険因子の寄与



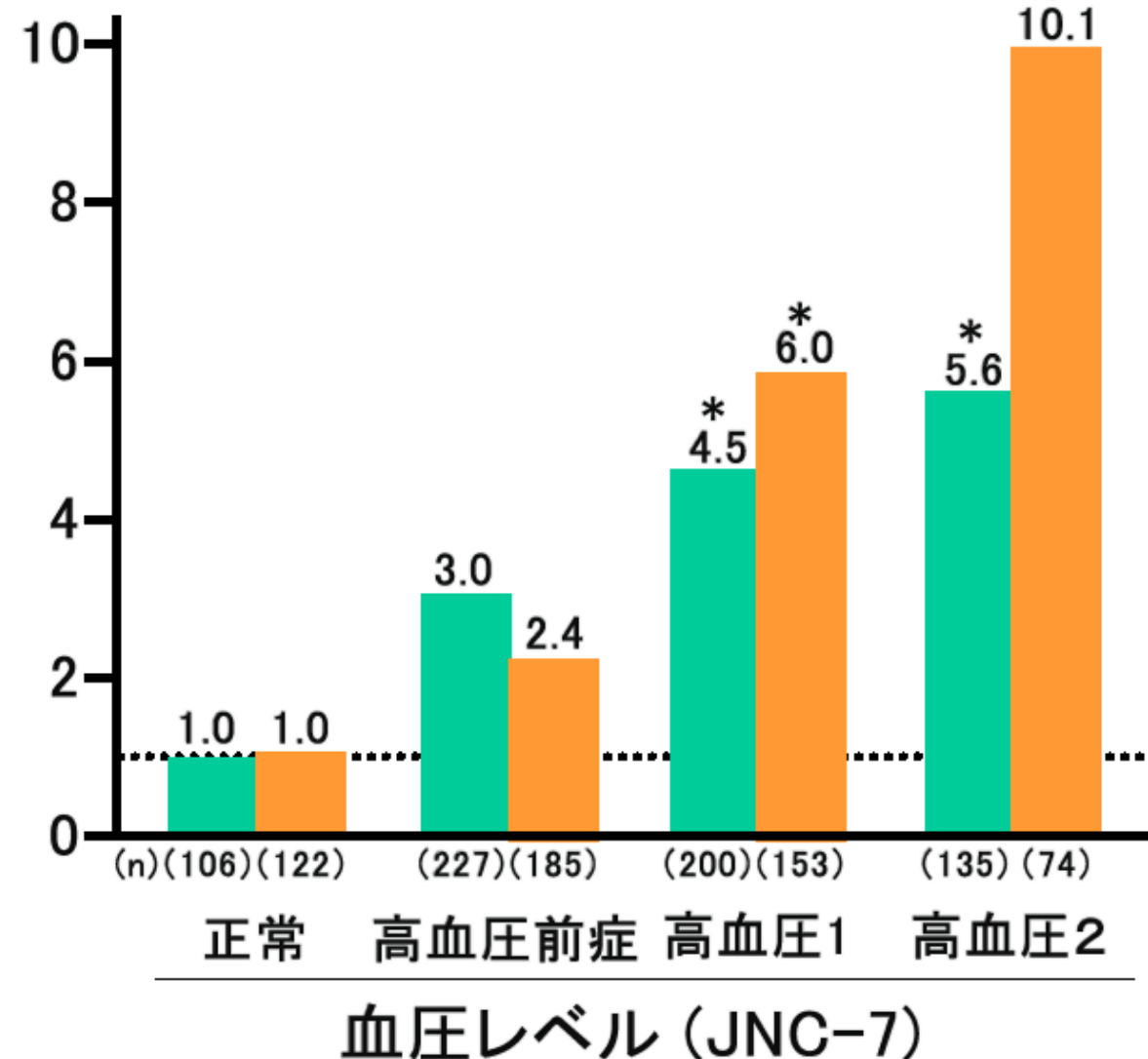
老年期・中年期血圧レベル別に見た病型別認知症の発症リスク

久山町男女668人, 65-79歳, 1988-2005年(老年期): 534人, 50-64歳, 1973-2005年(中年期), 多変量調整

アルツハイマー型認知症



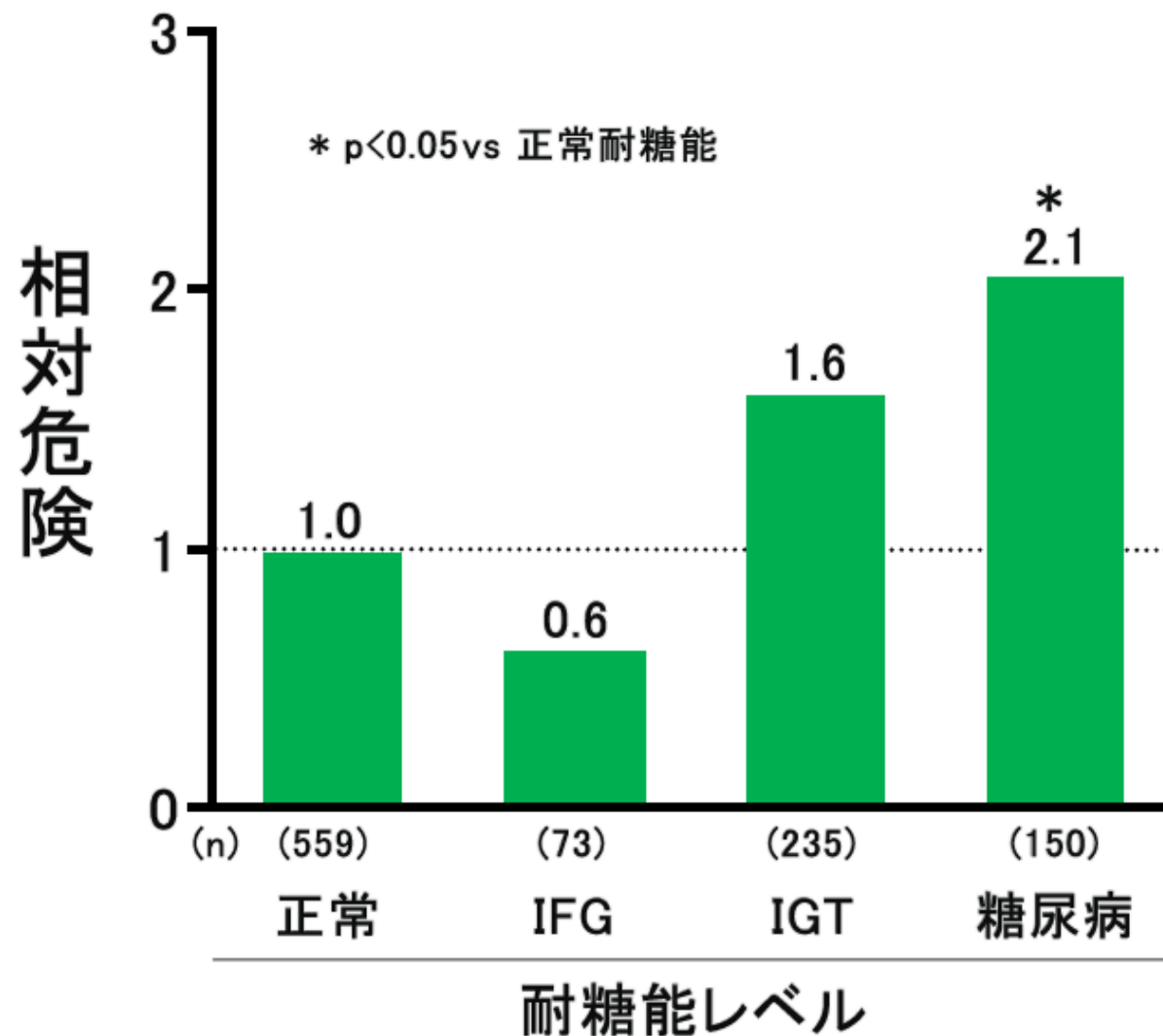
血管性認知症



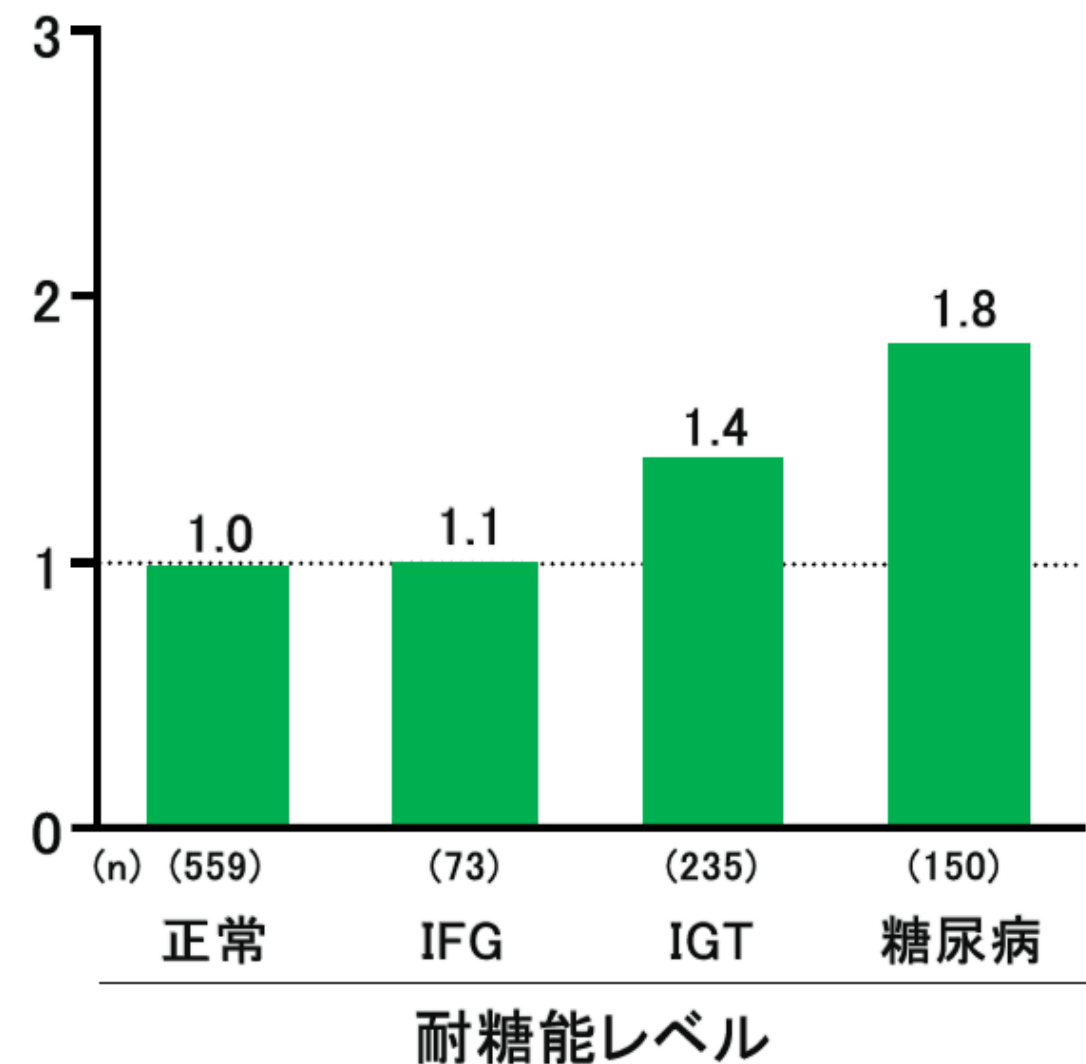
耐糖能レベル別に見た病型別認知症の発症リスク

久山町男女1,022人, 60歳以上, 1988-2003年, 多変量調整

アルツハイマー型認知症



血管性認知症



調整因子: 性、年齢、学歴、高血圧、脳卒中既往歴、心電図異常、肥満度、血清総コレステロール、喫煙、飲酒、身体活動度